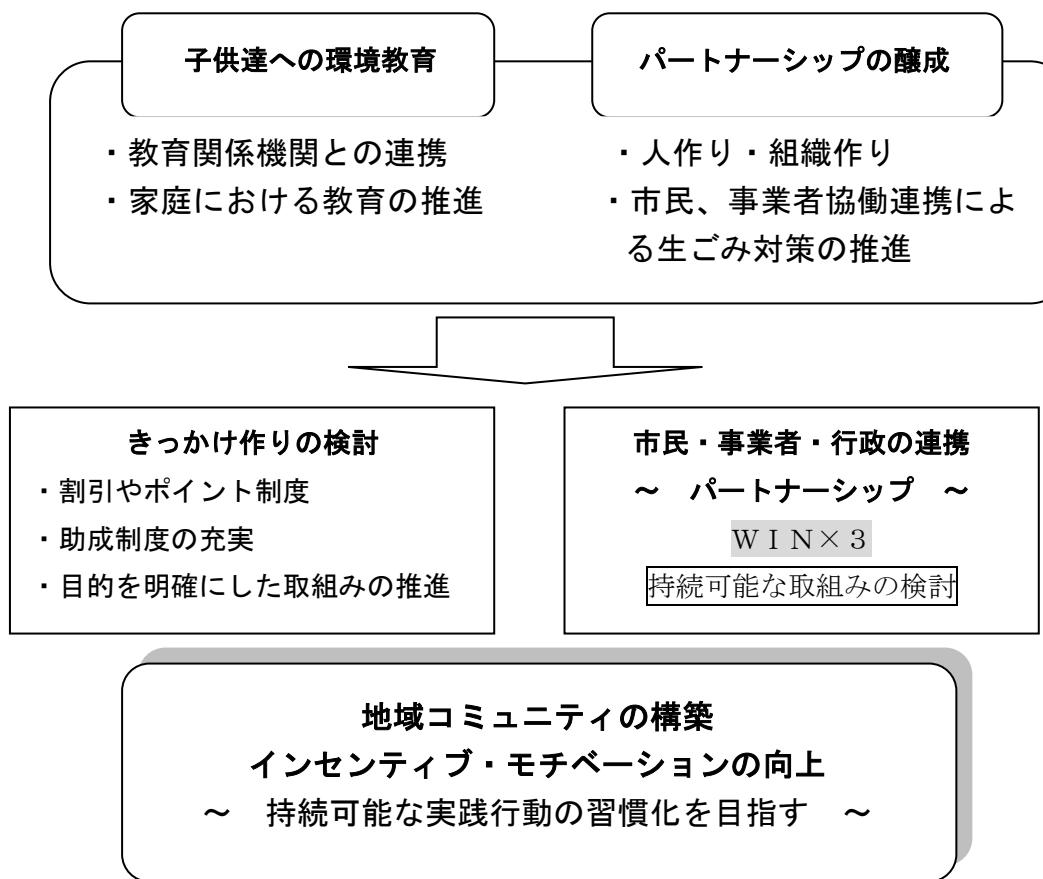


No.4	平成 26 年 10 月 20 日
廃棄物減量等推進審議会	

インセンティブを活用した持続可能なごみ減量化の取組み

ごみ減量化の推進に向けては、市民主導による取組みの推進、事業所が取り組むCSR活動の周知啓発及び市民活動との連携の推進に加えて行政の役割分担の在り方など効率的で持続可能な制度設計を検討していく必要があります。

(第3回審議会における意見)



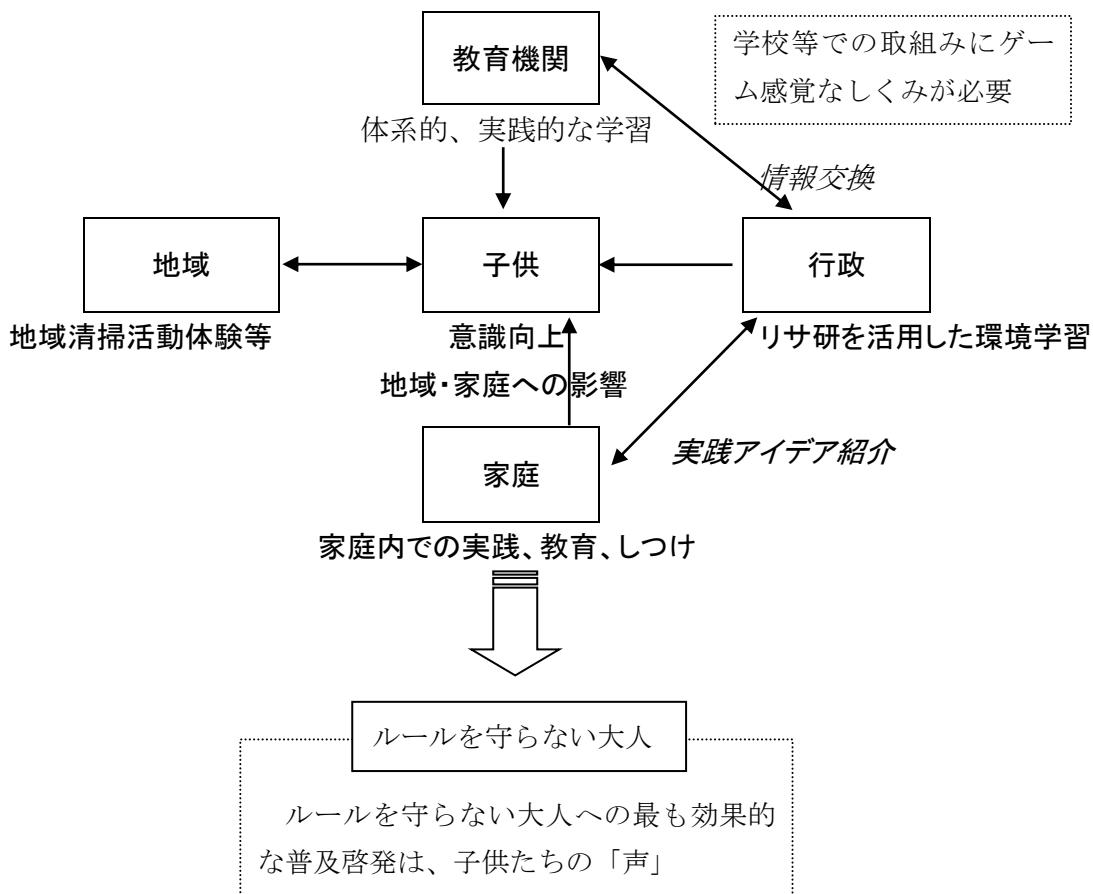
課題

行政の役割（きっかけ作りなど）について

情報提供、制度面、財政面など複数の視点で検討が必要

◎ 子供たちへの環境教育の推進

～ 家庭における子供への教育、子供から受ける教育 ～



(取組事例)

◎ 学校を拠点とした生ごみリサイクルの仕組みづくり（東京都足立区）

【実施主体】区内の小学校、NPO 団体

【概要】週に 1 回、登校時に自分の家から生ごみを持参してもらい、業務用生ごみ処理機で肥料原料にし、生ごみを持参した子供にはポイントを与える（スタンプカード利用）。年 3 回開催される野菜交換会で、リサイクル肥料で育てた野菜を、集めたポイント数に応じて交換。

【実績・課題】2008 年度時点で 4 校が実施。

- ◎ 人・組織作り
- ◎ パートナーシップの充実

(取組事例)

◎ 明治大学黒川農場を活用した生ごみリサイクル実証実験（川崎市）

【実施主体】大学、市

【概要】市民モニター(10世帯)が各家庭の生ごみを、市から提供されるダンボールコンポストで堆肥化。それを、4カ月毎に市が回収して黒川農場へ搬入。農場では、この堆肥を利用しての農作物の展示栽培や、成分分析などを実施し、生ごみ堆肥の信頼性を向上させるほか、市民や農家、関係団体への施肥指導を行う

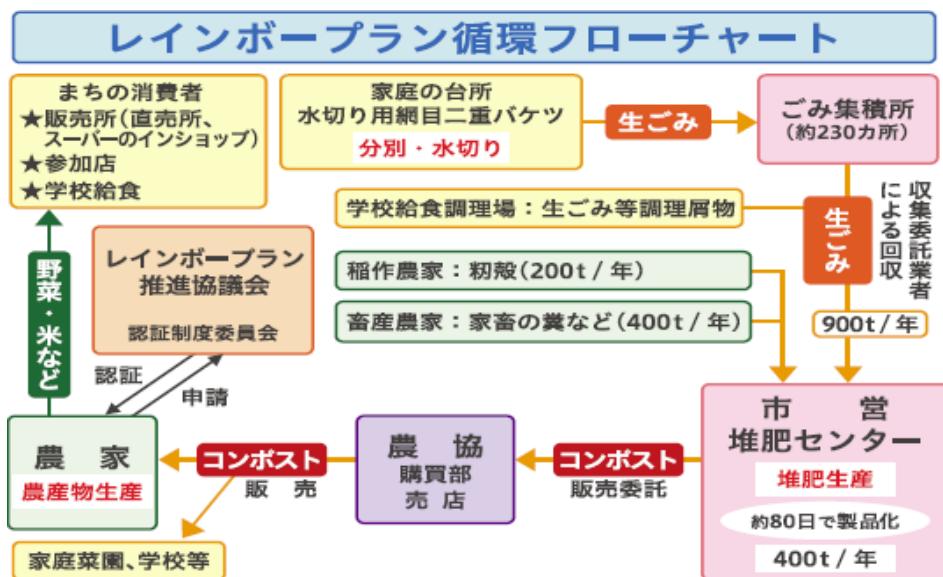
【実績・課題】市民モニターは、発表会に招待を受け、生ごみ堆肥を利用した野菜をもらえる。また、堆肥を利用した野菜栽培の講習会を受けることができる。

◎ 長井市レインボープラン

(生ごみの堆肥化とそれを利用した農作物の域内流通)

【実施主体】市民主導（事業者、市）

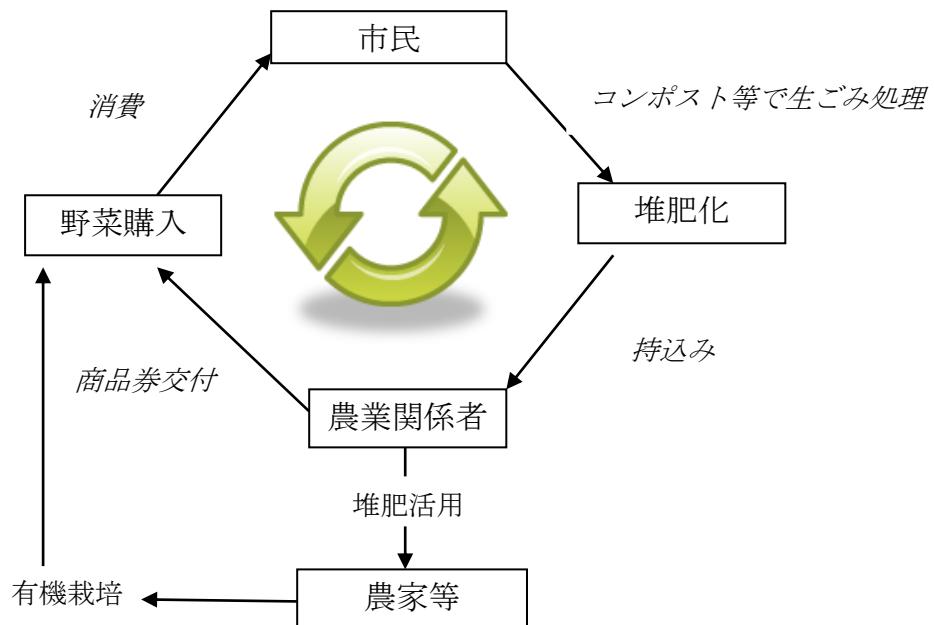
【概要】



◎ JAと連携した生ごみ堆肥循環システム（木津川市（案））

【実施主体】市、JA、事業所

【概要】



◎ 集団回収を発展させた各戸回収の実施（仙台市）

【実施主体】市民

【概要】集団回収の際に、「各戸回収（子ども会など実施団体が対象地域内の自宅を訪問回収）」と「ステーション回収（実施団体が指定したごみ集積所などに対象地域の住民が直接持ち込み）」を併用。

【実績・課題】集団回収の実施団体が少子高齢化で体力が弱くなっていることもあり、月1回の回収頻度を保てなくなっている地域が出てきている。

◎ 24 時間排出できる資源回収ボックスの設置（山梨県富士吉田市）

【実施主体】市が委託した民間の管理者

【概要】祝祭日を含め、民間の管理者が常駐して、市民からの資源物を受け入れ。また、業務用生ごみ処理機を設置し、希望者から生ごみを受入れ、堆肥化し、堆肥を無料配布している。

【実績・課題】リサイクル率が 2001 年度の 11.3%から、2005 年度は 16.9% へ上昇。

◎ 廉介類の分別収集モデル実験（千葉市）

【実施主体】市

【概要】市内的一部地域（約2,600 世帯）を対象に、厨芥類の分別収集を行い、民間施設で、バイオガス化を行う。生成されたバイオガスは、製鉄所で使用する他、残さは、ガス化溶融施設で、スラグ化して資源化される。

【実績・課題】収集量 184.1 トン（平成19 年11 月～平成21 年5 月）。

今後はモデル実験を拡大し、今後の全市実施に向けた方向性を検討する。